



仕事も時代で変わっていく

文部科学副大臣
名誉顧問 藤井基之



二、三年前に、アメリカのある研究者が、将来の職業についてこんな予測をして話題になったそうです。それは、「二〇一一年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの六五％は、大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう。」というのです。

今日は、「IT時代」といわれていますが、インターネットによる情報化が進むにつれて、人の仕事も大きく変わってきました。例えば、プログラマーとかシステムエンジニア、情報セキュリティマネージャー、ソーシャルメディア・コーディネーターなどといった職業が次々に生まれています。IT関連以外にも新しく生まれた職業は少なくありません。これから、社会の変化はさらに進んで、現在は存在していない全く新しい職業がもって生まれていき、これまでの職業に置き換わっていくだろう、十年、二十年後には、今の子供たちの六割以上が、私たちが想像できないような新しい仕事に就くこと

になるだろう、というのですね。考えてみれば、それぞれの時代時代に、人々の知恵と創意で、新しい商売や仕事が生まれ、あるものは発展し、あるものは消えてきました。例えば、江戸時代には、今の私たちがみると、へえーと思うような面白い職業がありました。いくつか拾ってみます。

穴蔵屋 「火事と喧嘩は江戸の華」などと、よく時代劇のセリフなどで言われますが、江戸の町では、大きな火事が頻繁に起きました。そこで、大店やお金持ちは、財産を守るため地下式の防災倉庫、「穴蔵」を持っていました。その穴蔵を専門に作る工務店がありました。穴蔵は四〜五坪あり、火災にも地震にも強かったそうですが、江戸は、もともと低地で湿地が多いところでした。このため穴蔵は、丈夫だけでなく、水漏れしないよう防水加工を施さなければならず、高度な技術が必要としたため「穴蔵屋」という専門の業者が必要だったのです。

献残屋 参勤交代で、大名が江戸に帰って来ると、大名家同士、侍同士でお互いのお土産を贈り合っていました。また武家に入りする商人がお得意先の武家に贈りものをしたり、商人同士の寒中見舞い、火事見舞いなどもありました。このため、出費が多く大変でした。

そこで、そうした贈答品の残りや払下げ品を引き取ってそれを再生する「献残屋」という商売がありました。献残屋は、それらの「中古品」を、贈答品を乗せるヒノキの台や桐箱なども用意して、新品同様にみがえらせ、安く提供したそうです。今でいう「リサイクルショップ」ですね。
デガ工船 今日でも同じですが、漁師さんは、漁を終えると港に帰り、取った魚を魚市場に出しセリにかけますが、江戸時代、瀬戸内には、鯛、ハマチ、サワラ、カレイなど一本釣り漁でとった大物を、魚問屋が舟を仕立てて漁師のところへ直接乗りつけ、買い取る「デガ工船」という船があったそうです。デガ工船に

は、生簀が作られ海水が入りやすくなるようになっており、鯛などの高級魚を生きのまま、大阪などの消費地に運んでいたのです。

熱海原湯回漕船 江戸時代、温泉は将軍様も大好きでした。しかしそう度々は行けない。そこで、御湯樽奉行に原湯を草津や熱海から運ばせていたそうです。ところが、将軍様だけでなく、庶民も温泉に入りたがったというので、熱海近在の漁師たちが原湯を大樽に詰めて、江戸日本橋まで回漕しました。日本橋には湯屋が待ち構えていて、一樽銀五匁で買い取りました。湯屋は銭湯とは別物で、「熱海の湯」などと看板を掲げて、大勢の客を集めていたそうです。

中馬 信濃（長野） は海から遠く離れ

ているため、塩を手に入れるのに苦労しました。そのため、日本海側からは千国街道（糸魚川から松本、塩尻、太平洋側からは三州街道（岡崎から足助、塩尻）の二本の「塩の道」が開かれていました。この二つの街道を、「中馬」と呼ばれる運送業者が塩を馬に積んで運びました。中馬は、塩を問屋に届けるのではなく、山間の村々の家一軒一軒訪れて塩を売っていたそうです。

小便仲間 江戸時代、大阪では、町の角に小便用の桶が置かれており、町民たちはそこで用を足しました。今日の公衆便所みたいなものです。ただし、その桶にたまった尿を肥料として近郊の農家に売っていました。尿を売るのには専門の業者で、「小便仲間」という組合を作っていた

たそうです。江戸では、長屋に共同便所があり、そこにたまった尿の販売権は大家が握っていましたが、しばしば、借家人とトラブルがあったそうです。

当時の人々のバイタリテイが感じられて面白いですね。今日、人々の職業も多様化しましたが、働き方もまた多様化しています。誰でも好きな仕事に就けるといふことではありませんが、子供たちは、スポーツ選手になりたい、調理師になりたい、警察官や消防士になりたい、宇宙飛行士になりたいと夢見ています。私たちの想像もつかない全く新しい職業を夢見ているかもしれません。子供たちがそれぞれの夢を叶えることのできる社会を作り上げていくこと、それは政治家の仕事ですね。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部付属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
平成13年 参議院議員(1期目)
平成16年 厚生労働大臣政務官(平成16年9月~平成17年11月)
平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
平成22年 参議院議員(2期目)
平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
平成24年 自由民主党広報本部 副本部長
広報本部新聞 出版局長
平成25年 自由民主党党紀委員会 委員
裁判官弾劾裁判所 裁判員
平成26年 原子力問題特別委員会 委員長
現在 文部科学副大臣